

補助事業番号 2021P-277  
補助事業名 2021年度 女性アスリートの競技力や女性の社会的評価の向上に資する  
研究事業 補助事業  
補助事業者名 鹿屋体育大学 スポーツ・武道実践科学系・講師・坂中美郷

## 1 研究の概要

研究タイトル：女性スポーツ科学研究者増のための「スポ女」育成の方策と課題

本研究では、女性スポーツ科学研究者増およびスポーツ科学分野をめざす女子中高大学生増への方策と課題を検討することを目的とした。方法は、鹿屋市内の女子中高生・女子大学生バレーボール部員を対象とした講演会とバレーボール教室の2つのイベントを実施し、イベントの前後で、参加者にスポーツ科学や働くことに関するアンケート調査を実施した。その結果、イベント①の講演会「スポ女集まれ！鹿屋体大サミット」では、女子大学生は「スポーツ科学はかっこいい」「働く女性がかっこいい・あこがれる」「女性アスリートはかっこいい・あこがれる」において、講演会後が有意に高値を示した。講師を女性が務めたことが、スポーツ科学への興味・関心や進路選択に関する意識の変化に影響を及ぼしたことが考えられた。イベント②のバレーボール教室では、中学生は、「スポーツ科学はよくわからない」において教室後が有意に高値を示したことから、動画視聴のみでは中学生にうまく伝わらなかった可能性が考えられ、コロナ禍における実施方法や実施内容を十分に検討して工夫する必要性が、今後の課題となった。

「スポ女」育成を発展させ、スポーツ科学研究者やスポーツ科学分野へ進学する女性を増やすためには、スポーツ科学分野で活躍する女性をロールモデルとして起用し、女子中高大学生と交流するイベントを今後も継続して実施していくことが必要である。

## 2 研究の目的と背景

本研究では、鹿屋市内の女子中高生・女子大学生バレーボール部員を対象とした講演会とバレーボール教室の2つのイベントを実施し、そのイベントの前後で、参加した女子中高生および女子大学生たちの意識がどのように変化したのかを分析することを通して、女性スポーツ科学研究者増およびスポーツ科学分野をめざす女子中高大学生増への方策と課題を検討することを目的として行った。

## 3 研究内容

(1) 講演会「スポ女集まれ！鹿屋体大サミット」

[\(鹿屋体育大学 - 「スポ女集まれ！鹿屋体大サミット」を開催しました | 鹿屋体育大学 \(nifs-k.ac.jp\)\)](https://nifs-k.ac.jp/)

- ・開催日：2022年1月22日（土）10：00～12：00
- ・開催場所：鹿屋体育大学 オンライン
- ・参加者：鹿屋市内の女子中高生・女子大学生約50名（高校生は後日録画視聴）

・ 講 師 :

ヨーコ・ゼッターランドさん (バレーボール)

1992年バルセロナ五輪銅メダリスト

1996年アトランタ五輪USA代表

日本女子体育大学准教授

後藤菜月さん (ボート)

鹿屋体育大学令和2年3月卒業、第35代体育会会長

鹿屋市立田崎中学校講師 (保健体育)

徳永尚子さん (卓球)

1965年世界卓球選手権シングルス優勝

1976年世界卓球選手権女子団体優勝

料亭二蝶 大女将

・ 調査方法 :

講演会の前後で参加者にアンケート調査を実施した。「スポーツがうまくなる・勝利するためにどんなことが必要か」「スポーツ科学に関するイメージ」「進路について」「将来について」「働く女性について」「大学・大学院について」の6つの尺度で、計36項目の設問を設定した。回答は「0: 全く思わない」から「5: そう思う」の6段階で求めた。また、講演会後のアンケートでは「講演を聴いての感想」を自由記述で回答してもらった。



講演会(オンライン)の様子



講演会ポスター

## (2) バレーボール教室

鹿屋体育大学女子バレーボール部員が、中学生と高校生にバレーボール教室を実施した。それぞれの実施内容および調査方法は下記のとおりである。

### 【中学生対象】

- ・開催日：令和4年1月22日(土)～2月20日(日)
- ・対象者：鹿屋市内の中学校1校、約20名
- ・実施内容：

中学生の練習の様子をタブレットで動画撮影し、後日大学生が動画を視聴して、改善点や練習方法をアドバイスすることとした。大学生から中学生への指導は、質問に対する回答として、後日、改善点や練習方法に関する動画を撮影して約10分程度に編集し、YouTubeに限定公開した動画を中学生が視聴することで行った。

### 【高校生対象】

- ・開催日：令和4年2月2日(水) 18:00～19:30
- ・対象者：鹿屋市内の高校1校、6名
- ・実施内容：

Zoomによりオンラインで実施した。まず初めに大学4年生の卒業研究の紹介をして、スポーツ科学について興味を持ってもらう取り組みをした。その後ブレイクアウトセッション機能を利用して、高校生1人と大学生2～3人が1組となり自由にディスカッションを行う時間を設けた。高校生からの質問内容は、バレーボールの技術や心構えに関する事項、大学生活に関する事項であった。

### 【調査方法】

バレーボール教室の前後で参加者にアンケート調査を実施した。「スポーツがうまくなる・勝利するためにどんなことが必要か」「スポーツ科学に関するイメージ」「進路について」「将来について」「働く女性について」「大学・大学院について」の6つの尺度で、計36項目の設問を設定した。回答は「0：全く思わない」から「5：そう思う」の6段階で求めた。

バレーボール教室前のアンケートでは、中学生・高校生には「バレーボール教室について、知りたいこと、指導してもらいたいこと、大学生に聞きたいことなど」を、大学生には「バレーボール教室について、どんなことを指導したいか、指導するうえで大切にしたいこと、気をつけたいことなど」を自由記述で回答してもらった。また、バレーボール教室後のアンケートでは全対象者に「感想」を自由記述で回答してもらった。大学生には、「イベント全体を通しての感想」も記述してもらった。

4 予想される事業実施効果

今後も、スポーツ科学分野で活躍する女性をロールモデルとして起用し、女子中高大学生と交流するイベントを継続して実施していくことにより、スポーツ科学分野へ興味・関心を持つ女性が増加すると期待できる。

5 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

- ・講演会「スポ女集まれ！鹿屋体大サミット」チラシ 200枚
- ・講演会「スポ女集まれ！鹿屋体大サミット」ポスター 50枚

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

6 事業内容についての問い合わせ先

所属機関名： 鹿屋体育大学（カノヤタイイクダイガク）

住 所： 〒891-2393

鹿屋市白水町1番地 鹿屋体育大学

担 当 者： 講師 坂中美郷（サカナカミサト）

担 当 部 署： スポーツ・武道実践科学系（スポーツ・ブドウジッセンカガクケイ）

E - m a i l : sakanaka@nifs-k.ac.jp

U R L :

<https://www.nifs-k.ac.jp/property/researchers/syllabary/syllabary03/001286-2/>